1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2017 年 9 月 3 日発行　SSKU　増刊通巻第 5869 号

NPO 法人わくわくかん
編集　〒115-0044
東京都北区赤羽南 2-6-6
TEL：03-3598-3337

http://www.wakuwakukan.net/

シャケ Zo くん

SSKU わくわくかん リボン便り

2017 年 9 月号　No.198

？？なぜリボン？？

生まれ変わった
再生したという意味の
（Reborn）。
新しく生まれ変わる
「便り」にしたくて、名付けました。

今年度の家族懇談会は、前年度に好評であった「当事者が語る」を中心に、さらにこれまであまり実施してこなかった、地区担当の保健師やハローワークの精神障がい者トータルサポーターに話を伺う機会を設け、また、施設の見学なども予定しています。

家族懇談会　今期も工夫して

今年度の第１回は５月 30 日（火）におこなわれ、統合失調症について当事者の方をお招きし、生活や就労等について実体験をもとに語っていただきました。障がい者が働き続けるにはどのような点に注意していけば良いかを中心にお話していただき、参加されていたご家族の方からは、働けるようになるまでの経緯等について質問がありました。

第２回は６月 27 日（火）におこなわれ、親が亡くなった後の備えの１つとして、地域の保健師とどのような関係を築いていけば良いか、王子、滝野川の各健康支援センターの地区担当保健師にお越しいただき、実際に担当された事例をもとにお話いただきました。

ご家族に支援をできるだけの力があると、当事者の世話ができてしまうため、結果として支援から遠ざかってしまっていたという事例もあり、ご家族の方が支援できなくなる前に繋がりを作っていただきたいとの話がありました。

第３回は７月 25 日（火）に、当法人内の働く場、就労継続支援Ａ型の事業所であるわくわく配食サービスを見学していただくとともに、担当スタッフより精神障がいを持っている方の働き方や環境についてお話させていただきました。障がいをお持ちの方の働き方は様々ですが、実際に見学したり説明を受ける機会はあまりないため、参加された方からは、働く環境や、どういった方が働けるのかについて積極的に質問が出ていました。

第４回は８月 29 日（火）実施予定で、ハローワーク王子より精神障がい者トータルサポーターをお呼びして、現在の障がい者雇用の状況についてお話しいただきます。

ご家族同士がお互いに悩みを話たり、情報交換ができる場にもなっています。今後もご家族の方の支えの一つとして、催していければと考えております。

◇年間スケジュール（予定含む）

５月 30 日	当事者が語る①「統合失調症」
６月 27 日	親なきあとについて①「地域の保健師としての関わり」
７月 25 日	就労シリーズ①「精神障がいを持っている人の働き方」
８月 29 日	就労シリーズ②「障がい者雇用の現状①」
９月 26 日	当事者が語る②
10 月 31 日	施設見学（予定）
11 月 28 日	就労シリーズ③「障がい者雇用の現状②」
12 月 26 日	懇談会（フリートーク）
１月 30 日	親なきあとについて②

北区の「平和祈念週間」に出店

北区では毎年 8 月上旬に「平和祈念週間」と題して、平和に関連した様々なイベントを、北とぴあで行っています。わくわくかんは、毎年参加しており、今年は 8 月 4 日（金）に出店をしました。今年は出店する施設が多く、4 日で合計 9 施設が参加し、わくわくかんは「たいよう事業所」と当日一緒に販売をしました。

当日の販売は、ひびきのメンバーが中心となって行いました。今回は、配食サービスで作った焼き菓子、焼きそば、「えか自然農場」から送ってもらった無農薬野菜、リボーン･ひびきで制作した小物のほかに、ドリップコーヒーも販売しました。家庭用のコーヒーメーカーで一杯一杯ドリップしたコーヒーを販売したのですが、最後の方に何かの会合で使うということで 8 杯の大量注文があり、てんてこ舞いでした。

ひびきのメンバー3 名は全て、販売に参加するのはほとんど初めてだったのですが、みんな非常に積極的に関わってくれました。昼過ぎにお客さんが沢山押し寄せてきたときも、慌てることなく正確にお金・商品の受け渡しができ、みな良い経験になったと口を揃えていました。

＜わくわくかん９月予定表＞

- ✧　9 月 02 日（土）03 日（日）第 34 回共同連全国大会滋賀大会 13:00～立命館大学くさつキャンパス
- ✧　9 月 09 日（土）はたらっくす 16:00～（自立訓練室）
- ✧　9 月 25 日（月）現場協議会 16:30～（スカイブリッジ）
- ✧　9 月 26 日（火）家族懇談会 16:00～（自立訓練室）

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2017 年 9 月 3 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 5869 号

わくわく配食サービス

就労継続支援 A 型事業
北区赤羽南 2-6-6
TEL：03-3598-0089
FAX：03-3598-0089

トマトときゅうりのサラダ

【材料】　4 人分
きゅうり――1 本
トマト――大 1 個
ゆでとうもろこし――1/2 本
(またはホールコーン缶 50g)
マヨネーズ―大サジ 1½
またはフレンチドレッシング
酢――大サジ 1
油――大サジ 1
塩――小サジ 1/2

【作り方】
① きゅうりは 1cm 幅のいちょう切りにし、塩を少々ふっておく。
② トマトもきゅうりと同じ大きさに切り、水気を少々きる。
③ とうもろこしは実を取る(缶詰の場合は水をきっておく)。
④ ①、②、③を合わせ、マヨネーズまたはドレッシングで和える。
⑤ ④を冷蔵庫で冷やす。

トマト、きゅうりが大きいとなかなか食べない子もいます。このサラダは食べやすい大きさに切ってありますし、とうもろこしが入って色鮮やかなので、子どももよく食べます。
ヨーロッパでは「トマトが赤くなると医者が青くなる」ということわざがあるほど、栄養たっぷり。赤い色はリコピンという成分で、有害な活性酸素の働きを抑える強い抗酸化作用があり、ガンや動脈硬化などを予防する効果が高いことがわかっています。
ビタミン C、A が多く、血圧を下げるカリウム、ルチン、脂肪の代謝を助ける B6 なども含まれています。

保存
ビニール袋に入れて冷蔵庫で 2～3 日。冷やしすぎると味が落ちます。

花火　　k37

三段ロケットは
何処までも飛んでいく気がした
その果てには
遠い銀河がひろがっている
そう思ってた
子供のころ描いた夢は
結局夢のまま終わる
僕は
何になりたかったのかな
プロ野球選手になりたくて
足元の芝生
擦り減らすほど
ボールを壁にぶち当てた
アナウンサーになりたくて
運動会の放送席で
甲高い声を張り上げた
いちばんに
なりたかったのかな
打ち上げ花火ほど
華麗でもない
スペースシャトルほど
スケールも大きくない
手作りの三段ロケット
シュルリと上がって
無様に落ちた
僕は泣いた
いまも
覚えている
綺麗で
スケールの計り知れない
思い出
空を飛べなかった
でも
夢だけは
忘れたくない

わくわく配食サービスの今後について

今年の 4 月に、国から方針転換があり「お弁当の売上から、必要経費を引いた純利益から当事者の方の賃金を払う」という制度に正式に変更になりました。
その後、東京都に現状報告として、主に会計報告などを提出しました。わくわく配食サービスは、上記のような純利益で当事者の方の賃金を支払うということはできていません。
今月に入り、東京都より就労継続支援 A 型事業所の法律に反しているため（純利益から当事者の方の賃金を支払うことができていない点）、経営の改善計画を提出するようにと通達がありました。

そこで、仕入れに関してもっと工夫ができないかとネット検索をしたところ、不揃いの野菜などネットでも購入できるようなサイトがたくさんありました。消耗品も少しでも安いところを探して、経費削減を目指していきたいと考えています。個人的には、まだまだ改善できるところがあると考えています。　(N)

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　　（毎月 3 回 8 の日発行）
2017 年 9 月 3 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 5869 号

自立訓練（生活訓練）事業 ボランティア響会

通称 響（ひびき）

〒114-0032　北区中十条 1-2-18
北区障害者福祉センター4F
TEL 03-5963-6888

＜外出報告＞～都庁～

新宿の西口を歩き、長いトンネルを出たら、そこに都庁本庁舎がありました。並んで展望台 45F にみんなでいきました。エレベーターにのると耳がツーンときて、みなさん耳をおさえてました。

たどりついても、耳なりがおさまらなかったです。それから展望台で 360 度の展望を見回りました。昼食の前に 2F まで降りて受付をしないと 32F の食堂まで行けなかったので、再び耳がツーンと来て耳なりがしました。いかにも特徴的でした。

その後各自で食事をしてＡからＥタイプまでズラリと並んだメニューを選んで、それぞれ注文しました。

食堂はさすがに大きな広場で人がたくさんいました。おどろきました。都庁の職員はなれた様子で席をとりました。それから食事をするために私達も８人分の席を選びました。その後損保ジャパンの美術館へ行き鑑賞しました。これまた 42F で耳がツーンときました。今回はこれで３回目です。みなさん満足げに帰宅の途につきました。今話題の都庁は、さすがに人が多くおどろきでした。（メンバーW）

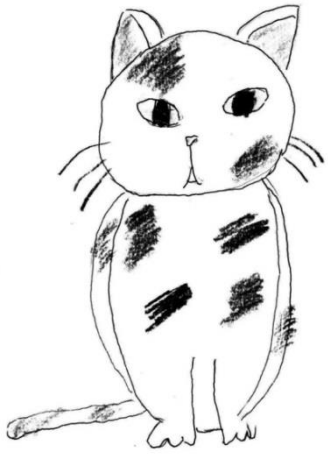
1ヵ月に 1 度のひびきの大掃除

先月、ひびきのプログラムで「すこやかな生活」でそうじをしました。そうじした場所は、床みがき、冷蔵庫（食品期限チェックとそうじ）、イスと机ふき、ロッカーふき、電子レンジのそうじなどなどやりました。

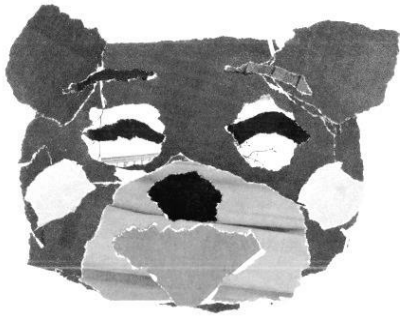
K.O さんが床みがき、H.T がロッカーふきです。K.O さんが担当した床みがきは、金属タワシと重そうで汚れをけずりとるようなかんじで大変でした。H.T さんの担当したロッカーふきは、ふだんはロッカーそうじをすることはないので、ロッカーそうじができて、大変気持ちが良かったです。

われわれ以外のメンバーさんもスタッフさんも担当された場所をしっかりそうじされていました。そうじに参加できて良かったです。　　（メンバーO&T）

福を呼ぶネコ



新聞紙（広告）ちぎり絵



クーマン（K、W）

“あれ？利用できちゃった！？”
～都立障害者総合スポーツセンター～

8 月 4 日のことです。この日は「体動かすかい？」プログラムがあり、スポーツセンターを利用する予定でした。ところがトラブル発生！いつもの団体予約では参加者 5 名以上必要なのが、この日は 4 名しかいませんでした。

団体での利用ができない…どーしよー、あーしよーなどあたふたしているとき、スポーツセンターの職員の方から、「スポーツセンター利用の個人登録をされている方はいませんか？」と聞かれ、「あ！そうか！！その方法があった！！」とスタッフＫさんはひらめきました。

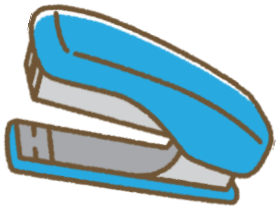
この日はメンバーは 2 名　スタッフ 1 名　ボランティア 1 名でした。メンバーさんの個人登録がしてあれば、予定通りスポーツセンターに行けます。メンバーF さんはすでに登録済み。もうお 1 人のメンバーの 0 さんが登録して頂けるということで、無事スポーツセンターへ行きました。

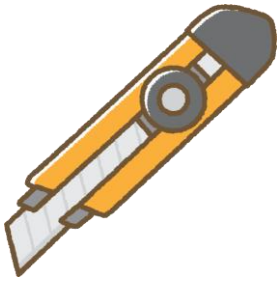
スポーツセンターでは、バドミントン、卓球を行いました。特に白熱したのは卓球。ダブルスで競いましたが、逆転につぐ逆転。2 試合の結果 1 勝 1 敗で引き分け。4 人という少ない人数ながら、とても楽しく運動できた半日でした。　　（メンバーO）

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2017 年 9 月 3 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 5869 号

就労移行支援事業

リボーンプロジェクト





〒114-0032　東京都北区中十条 1－2－18
北区障害者福祉センター４F　Tel：03-5963-6888

夏の食券祭り開催中！！

食券の冊子を作成に 6 工程

配食サービスからの委託受け細心の注意

リボーンプロジェクトでは、わくわく配食サービスからの委託を受けて、配食のお客様とのやりとりに使う食券の冊子を作成しています。食券は各 10～11 枚つづりになっており、基本コースである普通食券の他、大盛りやおかずのみ、法人内部用など用途によって複数種類があります。1 冊の食券が出来上がるまでには、①印刷、②裁断、③帳合、④ミシン目入れ、⑤袋とじ、⑥最終確認の６段階の工程があります。

まず原紙を所定のカラー用紙に印刷します。印刷した用紙からは、1 シートにつき食券 6 枚分が切り出せるようになっています。シートはページ番号ごとに分かれており、また表紙（表・裏）・領収書などがあります。次にそれを線に沿って裁断します。隣り合わせで 1 本の線を共有しているので、どちらかに偏らないように注意しながら切り出して行きます。（髪の毛ほどの太さの線の真ん中を切るという神業です！）続いてそれをページの順番ごとに組み合わせます。順序の間違いや重複・抜けなどが無いよう気を付けます。更にそれを所定の位置でホチキス止めし（端でずれないように止めるので力が要ります）、切り取り線のミシン目を専用の器具で入れます。その後、製本テープをホチキス止め部分に貼り、仕上げます。全ての工程でずれや汚れ、折れの無いように注意しながら仕上げて行きます。チェックも複数名で行ないながら進めます。最後に仕上がりの確認をして納品となります。

お客様にお金を出して購入して頂く商品ですので、細心の注意を払って作成しています。

＜食券共働作業アンケート＞

1．工夫していることや、気を付けていることは何ですか？

・裁断・線を切ってしまわないように気を付けています。・チェック・ミシン目がしっかりできているか、ページ数は正しいか。（まぐろ）
・「早さ」よりも、「正確さ」を重視するように心がけています。（S.T）
・なるべく言われた通りに切るようにしています。（T.K）
・線を見て、どの位置で切ればいいか考えることです。気を付けていることは、定規を抑える力加減を注意することです。（K.I）
・裁断ですが、食券と食券の間の黒い線の中心を切るようにしています。（A.S）
・線を意識する（K.S）
・ミスを少なくする（E.Y）

2．やりがいを感じることや、やって良かったと思うことは何ですか？

・角がきちんとそろった時は気持ち良いです。（帳合・ホチキス止め作業で）（M）
・まっすぐきれいに切れた時嬉しいです。（まぐろ）
・集中力が高まります。また、職員さんに時々お礼を言われます。（S.T）
・失敗が一枚もなく時間内にいっぱい出来ると嬉しい（K.T）
・やっているとスイスイと出来る感じがします。（K.I）
・少なくなった食券の空の部分が、埋められていくのが気持ちがいいです。（A.S）
・ミスを少なくするにはどうするか？と工夫のしがいがある。（E.Y）

3．感想

・単純な作業に見えますが、やってみると結構難しいです。でも達成感は味わえます！（まぐろ）
・食券作成で、何よりも重要なのは「作業に慣れる」事ではないかと自分は思います。（S.T）
・もう少し線が太いと切りやすいと思います。（K.T）
・慣れていったら、うまくできましたが、時々油断しないようにすることも大事だということが分かりました。（KAI）
・あまり頭を使わずにできるので、体調が悪い時に向いている業務だと思います。（A.S）
・まだまだ大変です。（K.S）
・なんとも言えない業務。（E.Y）

1998年10月9日第三種郵便物認可　（毎月３回８の日発行）
2017年９月３日発行　SSKU　増刊通巻第 5869 号

第５回　わくわくかん　家族懇談会のお知らせ

開催日時：　2017年９月26日（火）16:00～17:00
場　　所：　障害者福祉センター　４階　自立訓練室
内　　容：　当事者は語る２
個人面談：　※（事前にお申し込みを）17:00～
連 絡 先：　TEL　03－5963－6888　FAX　03－3906－9997

―新グループホームの感想を聞く―

リフォームされた部屋に移転

グループホームわくわくかんは今年５月、長い間、慣れ親しんだ男性グループホームの部屋を離れ、リフォームされた部屋に移転しました。以前の部屋は、昭和を感じさせる古びた内装だったり、今どきバランス釜でお風呂を沸かさないといけなかったり…。他の良い物件への移転を考えていました。しかし今年になってついに条件に合う物件が見つかりました。同じ建物内の別の部屋で、２DK。二人で共同生活をしていただくタイプのグループホームという点は変わりませんが、内装もきれいになりました。実際に暮らしているお二人はどう思われているのか？新しい住居での生活はどういったものか？今回スタッフＦが入居者のお二人に、インタビューしました。

＜S さんに聞く＞

―前の部屋とどっちがいいですか？
それは比べたら今の部屋のほうがいいっすよ！
―今のグループホームになって良くなったところは？
いやー無いっすね！
―風呂・トイレは良くなってないですか？
トイレ、風呂が別になりましたね。浴槽がきれいですね。
―リビングは？
広くなった気がしますね。
―料理作ったりされてましたけど、キッチンの使い心地は？
しょうが焼きを作ったり、ゆで卵を作りましたね。キッチンは広くなってます。
―共同生活タイプの GH ですが、２人暮らしはどうですか？
仲良くやってますよ。色々、気を使ってもらってますね。
―マンションの中の GH で、住民とはどうですか？
こちらから挨拶はしてますね。
―他の部屋のおばあさんからミカンもらったりしてる？
はい、気にかけてもらってますね。
―お風呂はどうですか？
バランス窯からガスに変わりましたね。
―トイレはどう変わりましたか？
きれいになりましたね。
―近隣住民とはどんな人たち？
角のおばさんには、今日病院に行ってきたとか、体調とか報告してますね。
―近所でおすすめのグルメなんてありますか？
名前忘れたけど、ララガーデンの中の寿司屋ですかね。
―卒業へ向けた意気込みをお願いします。
なるべく早く卒業したいっすね。

＜H さんに聞く＞

―今の部屋に変わってどうですか？
今の部屋の方がいいです。前は畳でしたし、広くなった。
―リビングは？
広くなったし、明るい色のフローリングになりました。冷蔵庫、ポット、炊飯器もよくなったし、風呂、トイレも気持ちよくなりましたし、風呂もボタンプッシュだけでいいし、バランス窯よりも事故が少なくていい。
―マンションの住民とはどうですか？
水漏れ事故があった時、下の階の人と話しました。
―H さんが業者を呼んで解決してくれた事故ですね。
フィリピンの人でした。事故の翌日謝りにいきました。
―GH の近辺でおすすめのグルメは？
やよい軒に昨日も行って、味噌カツを食べました。あとは、ララガーデンのスイーツ屋さん。店の名前は忘れましたが今まで２・３回行きました。一番落ち着くし…。
―卒業した後、次に入居される方にメッセージを。
部屋の状況もなかなか良いので、赤羽駅の近くで何でもあるし、やさしい街で。オススメです。

８月はたらっくす報告

８月のはたらっくすは 12 日(土)に行われ、８名参加で大盛況でした。精神科医への皆の不満が出て来た辺りで時間が来てお開きになり、盛り上がった所で終了で惜しい面もありました。

私の高校時代の同級生にエレファントカシマシの宮本浩次がいます。高１の時は毎日一緒に帰りました。宮本の唄を聴きながら思うに「お互い良い道を進んで来たなぁ」という事です。宮本も私も「サラリーマンにならなかった」からです。「サラリーマンというのは悲しいよなぁ」と高１の時に、宮本や友達の皆で語り合った時があります。保育園、小学校、中学、高校、大学、そして最後にサラリーマンが、あんぐりと口を開けて高校時代の私達を待っていました。宮本もヒット曲や熱烈な沢山のファンを持って、私も私なりに精一杯に、それは失敗も沢山あったけど 51 才まで生きられました。きっと宮本は「精神科に入院した変な奴がいたなぁ」と思ってるだろうけれど、私も「あのとんがった奴は、目標通りに芸能界で成功したよなぁ」と感慨深いです。

次回のはたらっくすは９月９日（土）16～18 時です。

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2017 年 9 月 3 日発行　SSKU　増刊通巻第 5869 号

書評

長期就労に向けての提言

～働く障がい者の職業上の希望実現度と職務満足度が離職意図に及ぼす効果～

（若林功　『職業リハビリテーション 21 巻』2007）

この文章は、みなさんの仕事を続けるために、また仕事に就くためのモチベーションを上げてくれる効果があると思い、紹介しています。仕事を通して得られる満足感の強さと、ご自身が望む仕事内容や条件の実現度の大きさは、長く仕事を続けることに一役買ってくれそうです。

この研究では、障がいを持たれる方の離職意図は労働者の職務充足度と職務満足度が影響していると考える「ミネソタ職業適応理論」を基に考案されています。ミネソタ職業適応理論は 1960 年代に身体障がい者の職業リハビリテーション場面を基に作られたものです。この理論では、労働者本人のニーズ・価値観（「給与がよいことが重要だ」との労働者の考え）と、環境側が提供する強化因子（実際に給与がよいことなど）の関係により、職務満足が変化し、また労働者個人の技能や能力が環境側の職務上の要求水準の関係により職務充足度が変わるという理論です。

職務満足度が働くことの条件、つまり労働条件にどのくらい満足しているかという度合いで、職務充足度は労働内容、つまり仕事に対して労働者がどの程度自らの能力を持って応対できているかという度合いであるといえます。総じて、ミネソタ職業適応理論は、個人のある時点における職業に対する適応の状態を、働く人間と環境の相互作用から説明する理論ということになります。特に注目すべき研究成果は、「仕事の達成感」「労働条件」等職務満足度を構成する要素のうち、離職意図と関連が強いのはどの要素かについては障がい種類によって異なっているという点です。

離職意図とは、その仕事を辞めて別の仕事に移りたいという気持ちのことです。私見ではありますが、精神障がいを持たれる方は内部障がいを持たれる方と似た傾向にあるという感覚を受けました。離職意図と関係のある要素として、肢体不自由では「仕事の達成感」と「同僚」、知的障がいでは「上司」、内部障がいでは「労働条件」であり、職務満足度と離職意図が大いに関係していました。研究者は内部障がいを持たれる方は、一般的に継続的医療ケアや体調管理が必要であり、そのためには労働条件、特に勤務時間や勤務場所などを考慮する必要があるとして、労働条件についての判断を優先し、それについて主観的に満足感を得られるか否かが継続して働くかどうかの判断の決め手になってくる場合が多いと考えられていると述べていて、精神障がいを持たれる方も同様の傾向があるのではないかと考えられました。

今後、事業主や支援者などが働く障がい者の職場定着を図る上で、環境整備それ自体はもちろん重要だと思いますが、整備により働く障がい者自身の主観的職務満足度が向上したかを事業主や支援者が把握していくことも重要だと考えます。また、離職につながる要素は障がい種別やその労働者が置かれている環境などによっても当然異なるため、それらを包括的にアセスメントした上での対応が迫られています。精神障がいを持たれる方の長期的就労はこれからの障がい者就労を考える上で、大変意義のあるものであると感じているので、これら先人の研究を踏まえて、精神障がいを持たれる方々の就労の実践的研究を行うことは大変重要であると感じられました。　（Ｓ.Ｈ）

現場からのひとこと④

障がいの見方が変わった！

ボランティア響会（通称「ひびき」）で非常勤としてお世話になり始めて、来月で１年が経ちます。自分の中でいろんなことが変わったなあと日々感じていますが、その一つは、障がいを特別なものとして考えなくなったことです。

ひびきが活動している部屋はご存知のように、北区障害者福祉センターの中にあります。ひびきとの行き帰りの途中で、建物の中で、障がいを持たれた方に遭遇する機会がたくさんあります。以前は、白杖や車椅子などを見るたびに「苦労が多いだろうなあ」と思っていたのですが、今は「背筋が伸びていて美しいなあ」「おお、めっちゃ笑ってる。楽しそう」など、障がい以外のことに焦点が向くようになりました。

先日もセンターの中で、脚に障がいを持たれたお子さんが歩行訓練をしていました。ご本人がにこにことトライしている様子を眺めながら、お母さんとスタッフが微笑みながら雑談を交わしていました。お母さんがお子さんを見守る表情はとてもあたたかく、「家でもお互いこんなふうににこにこと過ごしているんだろうなあ」と想像して、疲れがふわりと吹き飛びました。

最近では人と会うと、その人を取りまく生活を想像するようになりました。

トゲのある言葉を受け取ると、その時はムッとしてしまうこともありますが、「この人にそう言わせた出来事や環境があるのかもしれない」と考えて、以前より少しだけ、怒りを手放せるようになった気がします。障がいと向き合うことで、まだほんのちょっとですが、やさしくなれた気がする今日この頃です。

（自主訓練事業　M.K）

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2017 年 9 月 3 日発行　SSKU　増刊通巻第 5869 号

1998年10月9日第三種郵便物認可　（毎月3回8の日発行）
2017年9月3日発行　SSKU　増刊通巻第5869号

投稿

＜リボン便り＞を読んで

どの投稿にも清流が流れている
どんな時でも信じることをやめない

少し前の話。丁度テレビをつけたら、稀勢の里。名古屋場所。

初日御岳海に負け黒星スタート。翌日は勝星、1勝1敗。3日め、対戦相手は栃ノ心。どうした、稀勢の里。目線が上がらない。相手を捉えるどころではなく、ずっと下を向いたまま、塩を撒く、体を拭く。一連の動きが続き、視線は一度も上がらないままで、やはり取り組みも負けた。後、6日めから休場。5月の夏場所に続く。そうさ、こんな時もあるさ。

わくわくかん「リボン便り」を思った。6月号の投稿。「新横綱　稀勢の里関を支えた曲」を、M.Kさんが紹介していた。初めて知った曲と相まって、ずっと印象に残っていた。

その6月号だけでなく、7月号、H.Sさんの投稿。「お父さまから息子へ　多様性社会での自立！」や、8月号のK.Hさん、「海外と日本の文化の違い　互いの文化を尊重し、助けあって生活」でも、確認できたことがある。

それ以前もそうである。リボン便りのどの投稿にも一本の清流が流れていることを感じる。信じるということ。「どんな時でも信じることをやめないで」「いずれ自立した生活というゴールにたどり着けると私は信じて」「それぞれの文化や考えを尊重し、互いを尊重し、助けあいながら生活していくことこそが、真の世界平和につながると考える（と信じる）」。6，7，8月号から。

いつも、私がリボン便りのファンであるのは、自分を信じようとする人たちの声がたくさん詰まっているのが好きだから。それが呼応してきて、自信がない私も、やっぱり信じていこうと思えるから。どのページにも、たくさんの人がいて、いろんな感想があって。食材の効能、香りたち、ぐっと引き込む。働く喜び、交わす思いやことば、笑顔、思いやる（思いあう）気持ち、グループホームの毎日、暮らし。その日常に、本、会合、イベント、研修、集会で、視野・視点は広く世界まで。過去からも学び、ありたい未来を提示する。それが、体、生命をつくるクッキングから始まり、毎日の暮らしが、「はたらっくす」が、自分を生きていくが、たったの8枚の紙面につまっている。しかも、毎月。

そしてそれが何より、自然でいいと教えてくれるのは、カータン。理屈が入らず、ありのままを大事にしていいんだよ、と教えてくれる4コマのマンガ。ほんといい！飾らずでいいんだよ、そのままが大事だよ、と一緒にいたい空間をここに広げてくれる。しかもそれが、本当にあった話とは！いいなあ、いいなあ。毎回、このほのぼのを楽しみにしている。

配食のN.Tさんの毎号に載る一ロカット。のびのびとおおらかですね。

だから、「えいっ！」とかけ声をかけて、私もこの一文を投稿しよう。一つ行動する、その大切さを、いつもリボン便りが教えてくれているのだから。投稿に、イベント感想に、行動に、1人ひとりの思いがつまっている、この積み重ねこそが、私たちみんなを切り拓いていくと、信じて。　M.A

リカバリー・パレード（回復の祭典）
全国7地域で一緒に歩きましょう！

リカバリー・パレードは依存症や摂食障害、統合失調症、双極性障害などの心の病からの＜回復＊の喜び＞を社会に向かって表現する祭典です。東京では10月8日（日）11時集合、新宿中央公園（雨天決行）です。一緒に歩きましょう！

心の病、依存症、生きづらさなどから回復の道を歩いている本人と、家族、友人、支援者、その他の賛同者が、回復の喜びを祝うパレードです。

私たちは回復が可能であることを自分たちの声と姿で社会にアピールします。

心の病は統合失調症・うつ病・そううつ病・アルコール依存症・薬物依存症・ギャンブル依存症・摂食障害・セックス依存症・恋愛依存症・買い物依存症・仕事依存症・共依存症・不登校・ひきこもり・対人恐怖症などです。

私たちの目的は、心の病、依存症などに対する社会の無知（無知識）や偏見を取り除き、回復しやすい社会をつくることです。

（1）私たちは回復者、家族、友人、支援者、賛同者で一緒に回復の喜びを分かち合い、回復があることを社会にアピールします。

仙　台	9月18日（月）
東　京	10月8日（日）
横　浜	9月23日（土・祝）
大　阪	9月23日（土・祝）
広　島	9月23日（土・祝）
北九州	9月23日（土・祝）
沖　縄	11月2日（日・祝）

（2）私たちは、心の病、依存症、生きづらさなどから回復するための手助けをします。

（3）私たちは回復者（団体）同士の交流を深め、社会との協力関係をつくります。

＊回復とは

リカバリー・パレード「回復の祭典」では、以前より良くなったことを喜べる状態を「回復」と呼んでいます。

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2017 年 9 月 3 日発行　SSKU　増刊通巻第 5869 号

『ブラックジャック によろしく』第５巻

「麻央さんの死」を予言したような医療コミック

過日、フリーアナウンサーの小林麻央さんが乳がんで 34 歳の若さで亡くなりました。非常に痛ましく悲しい出来事でした。

麻央さんの発症の要因に東日本大震災の福島第一原発事故の放射線が妊婦であった身体（高感度受性時）に重なったのかもしれません。夫である歌舞伎役者の市川海老蔵さんは妻の体を心配して福岡や京都に一時避難したことによりマスコミからバッシング受け東京に戻らざるをえませんでした。自分中心の考えではなく、社会に「慈愛」や「共生」の気持ちがあればその後が変わっていたかもしれません。

福島の子供に甲状腺がんが多く見つかっています。検診で異常なしでもその後、リンパ節に転移した甲状腺がんが発病する。でも社会の本当の悲劇はその真実が過去になってしまう事かもしれません。

真実の残酷さと
社会における慈愛の必要性

今から 15 年前（2002 年）に発表された医療コミック（漫画）『ブラックジャックによろしく』（佐藤秀峰　講談社刊）があります。医療監修された、医療界からも反響を受ける衝撃の医療ドラマでした。もう「漫画」の枠を超えた作品で、その第５巻は「がん」をテーマにしています。

作品の主人公（研修医）に指導医が「がんの遺伝因子を人間はみな持っている」「がんで死なない人は発病する前に事故や別の病気でなくなるだけだ」ときびしい現実を突きつけます。「精神障がい」を持っている人も「がんの遺伝因子」があるという事を知って頂きたいと思い、この記事を書きました。まさか「俺が」「私が」もう精神疾患があるのだからと考えるのではないか。でも、作品の主人公（研修医）と同じ「回避」できない現実です。

そして小林麻央さんのがんの進行・悪性化をなぜ止められなかったか？

作品では抗がん剤についても、医療の知識が無い私に信じらない事を伝えます。「抗がん剤は厚労省で承認されたものだけで、その人に効かなくても医者も患者も選択できない」。作品は指導医が研修医立ち合いの膵臓がんの手術で、すべての見えるがんを摘出して成功します。

しかし、肺に転移が見つかり、本人に効くか否か抗がん剤に勝負をかけます。イリノテカン、アイソボリン、シスプラチン他いろいろ海外で使われても日本ではジェムザールのみなのです。効かなければ希望は無いのです。

この作品は今のテレビ医療・医者ドラマとはっきり違います。「全てハッピーエンド、手術大成功！」ではなく医療監修された「真実」に近いものです。

幼児の具合が悪くなり親は救急車を呼びます。すぐ到着して心肺蘇生の対応し搬送先を探しますが、どの病院でも受け入れてくれず命を落とす場面があり、主人公は自分の病院でも拒否をしたので自責の念にかられます。「本当にどうしようもならなかったのか」？！。

小林麻央さんの死はそれこそ氷山の一角、人は死から逃れられないのです。

精神疾患がある当事者やご家族の方は毎日を苦労されているでしょうが、一日一日を大切に過ごす様にしましょう。ほんの一瞬でも笑える時を大切にしましょう。お互い限りある命です。「慈愛」に満ちた「共生」できる社会にしましょう。　（H.S）

就労支援センター北わくわくかん

登録者（2017 年７月末）701 名
就職者 １名（清掃）

先月　ご協力いただいた皆様

・北区障害福祉課・北区健康推進部・北区社会福祉協議会・北区障害者福祉センター・ハローワーク王子・池袋・飯田橋・東京障害者職業センター・東京都障がい者就業支援事業所の会・北区身体障害者協和会・北区聴覚障害者協会・東京都精神保健福祉家族会連合会・精神障害者地域生活支援とうきょう会議・西ヶ原病院デイケア・NPO 法人飛鳥会・北区児童相談所・きたく子ども劇場・わかこまちゃん・東京しごと財団・町田の丘学園・㈱ECA・避難の協同センター・企業組合あうん・フードバンク川崎・日本福祉教育専門学校・戸田中央看護専門学校・彰栄リハビリテーション専門学校等、多くの方に協力いただきました。

グループホームわくわくかん

現在、男性２名・女性４名が入居中です。女性ホームでは、入居者との面談は先々月に他事業のホームを見学した際、「毎日朝・夕２回の訪問」をしている様子に「やり過ぎなのでは？」と感じつつ、訪問し自室で面談する事で話しやすい事があるかもしれないと、女性ホームでも週１回の面談を実施する事になりました。

面談の約束を守るのが苦手な入居者さんも、１ヶ月もしないうちに慣れてくれた様子で、「生活で困っている事は？」という問い掛けに、今までは「特に何も無い」とおっしゃっていた皆さんから、自転車置き場や室内のカビ問題等、出てくる出てくる。職員がホイホイ聞くのではなく、ご本人にも自分なりの解決方法を検討してもらうことで、この訪問が活かされると信じているこの頃です。

▼編集後記▼

8 月 6 日、ヒロシマの原爆記念日に、大阪では「韓国キャンドル市民革命に学ぶ～東アジアの非核化に向けて」が参与連帯の安ジンゴル事務処長を招いて開かれた。かつて金大中・金芝河救出や在日韓国政治犯救援でそのセンターとなった PLP 会館は老若男女によって埋め尽くされた。半年に 2 千万人が街頭に出て 1 人の負傷者も逮捕者も出さず、公権力を私的に濫用した大統領を退陣に追い込んだ開放的で自主的なキャンドル市民革命をしっかりと確認したが、今の韓国は格差も南北問題も解決していない課題があることも強調された。非正規など格差の増大には日本のユニオンとの連帯や南北問題解決にはアジアの平和と非核化が必要なことが語られ、日朝日韓連帯大阪連絡会議（ヨンデネット大阪）が存在する大阪ならではの集まりだった。

発行所　郵便番号 157-0073　東京都世田谷区砧 6-26-21　特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会　定価 100 円（会費に含む）